

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1472000932	事業の開始年月日	平成16年6月1日
		指定年月日	平成18年4月1日
法人名	有限会社 ヒューマンライフサービス		
事業所名	グループホーム悠悠苑 平塚事業所		
所在地	(〒254-0012) 神奈川県平塚市大神2108-1		
サービス種別 定員等	☐ 小規模多機能型居宅介護	登録定員 通い定員 宿泊定員	名 名 名
	☒ 認知症対応型共同生活介護	定員計 ユニット数	18名 2ユニット
自己評価作成日	平成22年2月25日	評価結果 市町村受理日	平成22年8月4日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設より6年がたち、ようやく土台が出来上がった様に思われます。地域からの理解も少しずつ得られる様になり、地域行事への参加の時など、協力を得ています。ご利用者様・ご家族の言葉から学ばせて頂く姿勢を大切にして、ご利用者様が安心して、笑顔で暮らして頂けるよう努めていきます。初心を振り返り、「ケアの質の向上」を事業所全体の目標にして、現状に留まることなく、常に向上心を忘れないグループホームにします。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	神奈川県横浜市中区本町2-10 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成22年3月29日	評価機関 評価決定日	平成22年6月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所概要】 この事業者は東海道線平塚駅または小田急線本厚木駅からバスで20分、バス停から3分ほどの住宅地にある。近くには寄木神社があり、利用者は初詣に行っている。建物は鉄筋2階建てであり、隣接して法人のデイサービスの事業所がある。利用者は毎日タオル体操などを日課にして身体能力の維持に努めている。事業所開設6年を迎えるにあたり、22年4月から「介護道場」と称して職員全員が研修に参加するなどサービスの質の向上に取り組んでいる。 【医療連携体制・看取りについて】 医師、看護師と24時間、電話連絡ができる。内科医が週1回、神経内科医が2週に1回、心療内科医が月1回、歯科医が週1回、皮膚科医は随時訪れている。看護師が週1回勤務している。月～金曜日は隣接のデイサービスの看護師が対応している。家族の希望により看取りを行う体制があり、経験も1件ある。 【地域との交流】 自治会の賛助会員として公民館祭り、盆踊り、子供みまもり隊などの活動に参加している。地域の方と挨拶を交わしたり、近隣住民から自宅のしだれ梅見への誘いや、人形など飾り物の提供があるなど地域との交流がある。民謡のボランティアが定期的に訪れて皆と楽しいひと時を過ごしている。保育園児とゲームなどを楽しむ交流会をしている。
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	悠悠苑 平塚事業所
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、朝の申し送り時に、確認の意味で復唱している。また、名札の裏に理念をいれてある。職場内でも、明るく穏やかにを基本に実践している。	理念は「ゆったりと・心穏やかに・尊厳を大切に・笑顔あふれる日々」である。利用者の起床にあわせて朝食を9時～10時にする、日常的会話を一緒に楽しむなど、ゆったりと笑顔ある暮らしを大切にしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物・散歩時には、近隣の方からこちらに挨拶をして頂いている。公民館祭り・盆踊り大会・町ぐるみ大清掃等・子供みまもり隊等、出来るだけ参加させて頂いている。	自治会の回覧板が22年から届いている。盆踊り（車椅子の方も参加）、小学生の「子供みまもり隊」など自治会活動に参加している。地域の方が自宅のしだれ梅見に誘ってくれたり、人形など飾り物を提供してくれるなど地域との交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	道路に面して入りやすい併設のデイサービスを窓口にして、地域の方が遊びに来られたり、見学に来られた時、気兼ねなく案内をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催、構成員からの意見を受け、災害時の連携・地域との連携等、今後の苑としてのあり方を検討、サービス向上に努めている。	21年10月から会場を事業所に変更して2ヶ月に1回、会議を行っている。活動報告を行い、参加者から意見、要望を聞いている。職員の写真を掲示してほしいという意見があり、それを反映させた。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	平塚市介護相談員を月1回受け入れている。社会福祉協議会主催のグループホーム連絡会に参加している。（介護保険課の方同席）	2ヶ月に1回に開催されるグループホーム連絡会出席時、市担当職員に相談などを行っている。介護相談員を月1回受け入れて利用者の話を聞いてもらっている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。万が一、行う場合は、緊急に委員会を開き検討する。	身体拘束は行っていない。玄関（日中）、居室は施錠していない。職員は、施錠をしないリスクなどについて話し合っている。利用者が事業所を離れた場合は、地域の方の理解が得られており、見守りなどをしてもらえる関係を築いている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	自己点検シートで虐待について確認、全体で学ぶ機会を持って、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市民後見人養成講座受講生の体験活動の受け入れをしている。地域福祉権利擁護事業の制度を2名活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が、ご家族・本人に説明し、理解・納得を図っている。改定の際は同意書を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望を聞き入れ毎日の生活に反映させている。平塚市介護相談員を月1回受け入れ、利用者の意見・要望を引き出して頂いている。	家族訪問時、運営推進会議など意見を出せる場がある。22年1月に家族会を設置した。もちつき会に合わせて家族会を行い、ざっくばらんに話し合ってもらった。意見箱のそばに筆記用具がないという意見があり改善した。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意向調査・アンケート等を行い、個々面談を行っている。また、月1回の運営会議に各ユニットのリーダーが参加し、職員の意見を聞く機会を設けている。	法人は年2回、職員面談を行なって職員の意見を聞いている。リーダーは職員の意見を聞き、運営会議（法人取締役も出席）で議題に挙げている。職員の要望に応じて法人で大型加湿器を購入した。また、研修内容は職員の意見を聞いて決めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	意向調査、個々面談等を行っている。運営会議・ユニット会議に参加し、把握に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会を設けている。系列グループ内でのリーダー交流会・交換研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	平塚市のグループホーム連絡会の相互研修・事例発表会。地域介護システム会議主催の研修会に参加している。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	話を聞く場を常に設け、共感し、不安を解消するよう努力している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会や電話により、家族等の不安や要望に耳を傾ける機会を作り信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族等の話・介護経過をよく聞き、カンファレンスを行い、ケアプランを立てている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事は、自分でして頂き、役割を持って生活して頂き、協力し合える関係を築けるよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係を密にして、電話をする機会を作る、面会に来て頂く、行事に参加して頂く等、共に支えていく関係を築けるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行事開催のお知らせ等を通して、面会の機会を作っている。また、家族へ本人から電話を掛けたり、友人・知人へ手紙を出したりしている。	利用者の友人が月1回程度継続的に訪れている。友人の訪問時には居室で自由に過ごしてもらっている。親戚の方への手紙、年賀状を出す支援をしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士に任せたり、介入したりと、職員は常に仲介の立場で接している。落ち着く場所の提供・レクレーションへの参加を通して関係づくりを支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	写真をアルバムにして贈る、管理者が、電話等で経過を伺うなどしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	健康管理・安全確保に留意し、本人の意思の確認を行っている。	本人から直接希望を聞いたり、利用者の顔色や表情を見て気持ちに寄り添っている。野菜作りが好きな方には小松菜を育ててもらっていた。介護相談員を通して利用者の思いを把握し、美術館に職員と出かけたことがある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント・利用者との会話から、これまでの暮らしの把握に努め、その上に積み重ねるサービスを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状の把握に努めている。変化等に関しては、職員間で情報交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の担当者を決め、より細かい観察に努めている。ケアカンファレンスは、全員で行い介護計画を作成している。本人・家族の希望を反映しているが、十分ではない。	介護計画は利用者、家族、必要な方については医師等の助言を反映させている。ほぼ毎日、当日出勤している職員で会議を行い見直しに活かしている。通常は3ヶ月ごとにモニタリングを行い、6ヶ月で見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケア記録、申し送り等で情報を共有し、実践・介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のデイサービスを活用している。また、他ユニットとの交流を深め、支援に役立てている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公民館・公園等に散歩に出掛けている。また、地域のボランティアによる民謡の会を開催している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問医療により内科・心療内科・皮膚科・歯科等、適切な医療を受けられるよう支援している。状況に応じ家族との連携も取っている。	利用前からのかかりつけ医を利用している方もいる。事業所の協力医以外の医療機関の受診には家族が同行し、受診内容は職員と共有するようになっている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設のデイサービスの看護師と連携を取り合い支援している。週1回、看護師の出勤があり、情報を伝え、相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	サマリーを作成し情報交換を行っている。また、お見舞い時・退院時に病院側から情報を提供して頂いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方についての同意書を頂いている。主治医・家族と連携を密にし、管理者・リーダー・看護師を中心に対応を検討している。	家族の希望により看取りを行う体制があり、家族、職員は方針を共有している。経験も1件ある。「重度化した場合の対応指針」について家族の同意を得ている。「看取り介護についての同意書」など様式が整備されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	防災訓練の際、指導を受けている。救急法等の講習会に参加。個々に地域の訓練に参加しているが、全ての職員が実践力を身に付けるまでには、至っていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	苑内での避難訓練は、年2回、実施している。地域との連携を運営会議の際、話し合っている。	年2回、市防災危機管理課の立ち会いで避難訓練を行っている。1階は夜間、2階は昼間を想定して行った。地域からの災害時協力体制は課題となっている。水、缶詰、アルファ米、防災頭巾を用意している。	災害時に地域の協力が得られるように運営推進会議などで災害時の地域との連携について検討される事が望まれる。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に努力はしているが、完全ではない、職員間で注意しあい、声掛けの工夫が必要と思われる。	管理者と職員で排泄時などの声のかけ方について話し合った。職員は介護のあり方について自身の目標をたてて努力をしている。利用者と目線を合わせて話すようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けを工夫し、本人の意思を引き出せるように対応している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	健康管理・安全確保に留意し、本人のペースを大切に対応しているが、十分ではない。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来るだけ、本人の希望に沿って、支援している。尚、清潔が維持出来る様、声掛けの工夫をし、更衣の促しを行っている。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを一緒に考えたり、利用者と職員が一緒に準備・片付けを行っている。また、お礼の言葉を必ず掛けている。	日、月曜日は利用者と一緒に考えた献立にしている。お寿司の希望が多く出る前を取ることもある。誕生日は本人の希望の献立にしている。訪問時、利用者は食器洗い、玉ねぎの皮むき、調理をしていた。職員は、利用者と同席して同じものを食していた。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事摂取量を表にまとめている。水分量の少ない方は、プランに挙げて、支援している。食べる力に応じ、トロミ・きざみ等の工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛け・見守り・介助等、本人の力に応じた対応を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を付け、排泄能力・排泄パターンを把握している。声掛け・誘導を行っている。	排泄パターンを把握して必要な方には時間を見て誘導をしている。昼間は全員トイレを利用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、牛乳・乳製品を取り入れている。水分を多めに促す、運動・散歩の働きかけを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日・入浴時間を決めずに希望に応じて入浴が出来る様、配慮している。拒否のある方には無理に勧めず、声掛けの工夫・タイミングに合わせ支援している。	1階は13：30～17：00、2階は10：00～16：00位に入浴をしている。体調に合わせて足浴、シャワー浴を行っている。入浴したがいらない方にはその時により対応の仕方を変え、家族に協力してもらったこともある。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の意思に任せている。意思を表せない利用者には、様子観察をして必要に応じた対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をカードデックスにファイルし、一人一人の薬の目的や副作用を理解するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事への参加・行事へ参加等、一人一人の力を活かした役割を持っている。年齢と共に外出する機会は減って来ているが、音楽・散歩等で気分転換を図っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩・買い物等外へ出掛けられるよう支援に努めている。家族会等で協力を要請している。	公民館にゲートボールの見学に行ったり、散歩、買い物に行っている。玄関横にベンチがあり、外気浴が出来る。河川敷にポピーの花を見に行く、さむかわ中央公園等に出かけている。家族の支援で墓参りに行く方もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が必要とする物を聞き入れ一緒に買い物に行っている。お金は、職員が管理している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族等の理解の下、電話をしたり、手紙のやり取りをしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた装飾を行っている。	リビングの床は畳敷きで利用者は上履きを使用せずに過ごしており、温かみがある空間になっている。利用者に合わせてソファなどが配置され、横になって休んでいる方もいた。朝は換気をし、職員は湿度計を見て湿度の管理をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になれる場所、気の合った者同士が過ごせる場所がある。居室・外ベンチ		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や、本人の好みの家具・品物を家族と相談しながら配置している。	各居室にはクローゼットが設置され、防災頭巾が下げられている。全家族に加湿器の持込を依頼している。使い慣れたたんす、テレビを置き、本人の作品などを飾り、その人らしい部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人に応じた寝具（ベット・布団）、家具等の設置をおこなっている。		

事業所名	悠悠苑 平塚事業所
ユニット名	1 階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、朝の申し送り時に、確認の意味で復唱している。また、名札の裏に理念をいれてある。職場内でも、明るく穏やかにを基本に実践している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物・散歩時には、近隣の方からこちらに挨拶をして頂いる。公民館祭り・盆踊り大会・町ぐるみ大清掃等・子供みまもり隊等、出来るだけ参加させて頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	道路に面して入りやすい併設のデイサービスを窓口にして、地域の方が遊びに来られたり、見学に来られた時、気兼ねなく案内をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催、構成員からの意見を受け、災害時の連携・地域との連携等、今後の苑としてのあり方を検討、サービス向上に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	平塚市介護相談員を月1回受け入れている。社会福祉協議会主催のグループホーム連絡会に参加している。（介護保険課の方同席）		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。万が一、行う場合は、緊急に委員会を開き検討する。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	自己点検シートで虐待について確認、全体で学ぶ機会を持って、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市民後見人養成講座受講生の体験活動の受け入れをしている。地域福祉権利擁護事業の制度を2名、活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が、ご家族・本人に説明し、理解・納得を図っている。改定の際は同意書を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望を聞き入れ毎日の生活に反映させている。平塚市介護相談員を月1回受け入れ、利用者の意見・要望を引き出して頂いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意向調査・アンケート等を行い、個々面談を行っている。また、月1回の運営会議に各ユニットのリーダーが参加し、職員の意見を聞く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	意向調査、個々面談等を行っている。運営会議・ユニット会議に参加し、把握に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会を設けている。系列グループ内でのリーダー交流会・交換研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	平塚市のグループホーム連絡会の相互研修・事例発表会。地域介護システム会議主催の研修会に参加している。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	話を聞く場を常に設け、共感し、不安を解消するよう努力している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会や電話により、家族等の不安や要望に耳を傾ける機会を作り信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族等の話・介護経過をよく聞き、カンファレンスを行い、ケアプランを立てている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事は、自分でして頂き、役割を持って生活して頂き、協力し合える関係を築けるよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係を密にして、電話をする機会を作る、面会に来て頂く、行事に参加して頂く等、共に支えていく関係を築けるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行事開催のお知らせ等を通して、面会の機会を作っている。また、家族へ本人から電話を掛けたり、友人・知人へ手紙を出したりしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士に任せたり、介入したりと、職員は常に仲介の立場で接している。落ち着く場所の提供・レクレーションへの参加を通して関係づくりを支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	写真をアルバムにして贈る、管理者が、電話等で経過を伺うなどしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	健康管理・安全確保に留意し、本人の意思の確認を行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント・利用者との会話から、これまでの暮らしの把握に努め、その上に積み重ねるサービスを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状の把握に努めている。変化等に関しては、職員間で情報交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の担当者を決め、より細かい観察に努めている。ケアカンファレンスは、全員で行い介護計画を作成している。本人・家族の希望を反映しているが、十分ではない。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケア記録、申し送り等で情報を共有し、実践・介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のデイサービスを活用している。また、他ユニットとの交流を深め、支援に役立っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公民館・公園等に散歩に出掛けている。また、地域のボランティアによる民謡の会を開催している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を楽しみながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問医療により内科・心療内科・皮膚科・歯科等、適切な医療を受けられるよう支援している。状況に応じ家族との連携も取っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設のデイサービスの看護師と連携を取り合い支援している。週1回、看護師の出勤があり、情報を伝え、相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	サマリーを作成し情報交換を行っている。また、お見舞い時・退院時に病院側から情報を提供して頂いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方についての同意書を頂いている。主治医・家族と連携を密にし、管理者・リーダー・看護師を中心に対応を検討している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	防災訓練の際、指導を受けている。救急法等の講習会に参加。個々に地域の訓練に参加しているが、全ての職員が実践力を身に付けるまでには、至っていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	苑内での避難訓練は、年2回、実施している。地域との連携を運営会議の際、話合っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に努力はしているが、完全ではない、職員間で注意しあい、声掛けの工夫が必要と思われる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けを工夫し、本人の意思を引き出せるように対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	健康管理・安全確保に留意し、本人のペースを大切に対応しているが、十分ではない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来るだけ、本人の希望に沿って、支援している。尚、清潔が維持出来る様、声掛けの工夫をし、更衣の促しを行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを一緒に考えたり、利用者と職員が一緒に準備・片付けを行っている。また、お礼の言葉を必ず掛けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事摂取量を表にまとめている。水分量の少ない方は、プランに挙げて、支援している。食べる力に応じ、トロミ・きざみ等の工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛け・見守り・介助等、本人の力に応じた対応を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を付け、排泄能力・排泄パターンを把握している。声掛け・誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、牛乳・乳製品を取り入れている。水分を多めに促す、運動・散歩の働きかけを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日・入浴時間を決めずに希望に応じて入浴が出来る様、配慮している。拒否のある方には無理に勧めず、声掛けの工夫・タイミングに合わせて支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の意思に任せている。意思を表せない利用者には、様子観察をして必要に応じた対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をカードデックスにファイルし、一人一人の薬の目的や副作用を理解するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事への参加・行事へ参加等、一人一人の力を活かした役割を持っている。年齢と共に外出する機会は減ってきているが、音楽・散歩等で気分転換を図っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩・買い物等外へ出掛けられるよう支援に努めている。家族会等で協力を要請している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が必要とする物を聞き入れ一緒に買い物に行っている。お金は、職員が管理している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族等の理解の下、電話をしたり、手紙のやり取りをしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた装飾を行っている。湿度が保てる様、加湿器を設置した。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になれる場所、気の合った者同士が過ごせる場所がある。居室・外ベンチ		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や、本人の好みの家具・品物を家族と相談しながら配置している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人に応じた寝具（ベット・布団）、家具等の設置をおこなっている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム悠悠苑平塚事業所

作成日 H 2 2 年 8 月 5 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害時に地域の協力を得られるように運営推進会議などで災害時の地域との連携について検討される事が望ましい。	地域との連携を図る。	1、運営推進会議に消防署の方を招き、地域との連携について討議する。	H22年9月中旬実施
2				2、地域の防災訓練に職員が参加する。	H22年8月28日参加予定
3				3、年2回の避難訓練・消火訓練に地域の方の参加を依頼する。	H22年10月 H23年3月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。